

特別な教育的支援が必要な生徒が、高等学校でも一貫した支援が受けられるよう、生徒についての必要な基本情報や、中学校での生活や学習状況などをまとめた支援に必要なシート。個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成していない場合でも、このシートを使って引継ぎを行うことができます。

中学校と高等学校の連携を図った 特別支援教育の推進

～ガイドライン・連携シート等の効果的な活用による
中学校から高等学校への確実な引継ぎ～

県では、中学校から高等学校への特別な教育的支援の引継ぎにおいて、必要な情報を確実に引き継ぎ、対象生徒が進学当初から適切な配慮が受けられる体制づくりを目指しています。通学区域が拡大したことなどから、地域や学校によって取組が異なる状況にあるため、このたび「中学校・高等学校連携シート」を活用した引継ぎの仕組みを示し、全県で切れ目ない支援を目指すことになりました。

引継ぎを確実に進めるポイント

中学校と高等学校との連携 (共通理解)

- 引継ぎ方法の共通理解
- 効果的な配慮事項の共通理解等

校内・地域の支援体制の構築 (組織的な取組)

- 校内委員会による生徒の実態把握と支援検討
- 特別支援学校のセンター的機能の活用など地域における支援体制の構築等

保護者への働きかけ (理解啓発)

- 引継ぎの目的、有効な活用方法についての理解を図り不安や誤解を取り除く
- 個人情報の取り扱いについての説明等

「平成29年度発達障害の可能性のある児童生徒等に対する連携支援事業(系統性のある支援研究事業)理解啓発研修会(報告)」から

平成30年3月
兵庫県教育委員会

中学校・高等学校連携シート(記入例)

●作成に関する情報

作成者	〇〇市立〇〇〇〇中学校	担任	〇〇 〇〇	作成日	平成30年2月20日
		特別支援教育コーディネーター	〇〇 〇〇		

●生徒についての基本情報

生徒の名前	兵 庫 花 子	生年月日	平成14年6月1日	性別	女
在籍状況	☒ 通常の学級 ☐ 特別支援学級	通級の利用	無	スクールカウンセラーの利用	無
在籍時期	中1～中3	通級の利用時期	無	手帳の有無	有(B2)
医療情報	病院名 市立 〇〇〇 病院	主治医	〇〇科 〇〇医師	服薬	有
	ASD・ADHD(〇〇医師)	薬名	〇〇〇〇薬	診断名	有
相談機関	〇〇発達障害者支援センター	診断時期	平成18年6月11日	担当者	〇〇 心理士
		サポートファイル	無		

●サポートのために必要な情報

コミュニケーション	☐ 友人がいない ☐ 友人が欲しいと望んでいる ☐ 友人が数人いる ☐ 教師とは話せる ☐ 相談できる人がいる ☐ 表現が拙い ☒ SOSが出しにくい ☐ 困り感の自覚がない ☐ 協力を要請できる ☐ 相手の感情理解が苦手 ☐ 字義通り受け取る ☐ 親切心がある ☐ 積極的に人と関わる ☒ 受け身で自分から関係を築きにくい
学習	☐ 読みの苦しさがある ☒ 書きの苦しさがある ☐ 計算の苦しさがある ☐ 漢字や絵など形を捉えにくい ☒ ノートの作成が苦手 ☐ 聞きながら書くことが苦手 ☒ 板書が遅い ☐ 学習に消極的 ☒ 集中しにくい ☐ 提出期限を守るための段取りが苦手 ☐ 発表を避ける ☐ 衝動的に発言する ☐ 筆記用具やプリント等がなくなりやすい
日常生活	☐ 指導されても同じことを繰り返す ☒ 集中が難しい ☐ 指示が通りにくい ☐ 集団活動より一人を好む ☐ 自傷、他害がある ☐ 不器用さがある ☐ 衝動性が強い ☐ こだわりがある ☐ ゲーム等や人に依存しやすい ☐ マイペースである ☐ 礼儀正しい ☐ 感覚過敏・鈍麻がある ☐ 友人の援助を借りやすい ☐ 友人の援助が借りにくい
感情コントロール	☒ ストレスをかえやすい ☐ かっとなりやすい ☐ おだやか ☐ 不安を抱えやすい ☐ フラッシュバックがある ☒ 想定外のことが起こると不安定になる ☐ 自己中心性が強い ☐ 幼さがある ☐ 自分の感情に気づきにくい ☐ 感情の切り替えができにくい ☐ 相手の言動を被害的、猜疑的、攻撃的に捉えやすい ☐ 自分の感情を話すのが苦手
本人の特性理解	☒ 本人告知を受け、診断名を知っている ☐ 診断名は知らないが、特性は知っている ☐ 診断名も特性も知らない ☐ 本を読むなど学ぼうとしている ☐ 診断を悲観的に捉えている ☐ 診断を前向きに捉えている ☒ 障害特性を特に気にしていない ☐ 障害特性、診断名を友人には話している ☐ 診断名を誰にも言っていない
本人の興味・得意なこと	・スポーツに関する知識は豊富。特に野球、サッカー、テニスに関する知識は豊富にある。 ・教科では歴史が好きで、本人も自信を持っている教科である。
本人の進学への希望(将来の夢)	・大学への進学を希望している。将来的には人の役に立つ仕事に就きたいと考えている。
保護者の希望	・学校でのストレスが高まると、登校を渋ることが何回もあった。 本人の思いを聞き取りながら関係を作ってもらえる先生と出会うことができれば、安心して通えると思う。
その他参考になる事柄(検査・合理的配慮等)	・中学2年時にWISC-IVを受検 ・全検査IQ104,言語理解指標97,知覚推理指標115,ワーキングメモリー指標109,処理速度指標94 ・合理的配慮としては、授業において学習内容を図や絵にした補足説明等の支援を行った。

記入できる項目・
内容のみを記入。

私は上記の内容を確認し、進学する高等学校等へ情報提供することについて同意しました。

平成30年2月25日

保護者名前

兵 庫 太 郎



※ この様式は、特別支援教育課HPからダウンロードできます。

関係通知

- ・「中学校から高等学校への特別な教育的支援の引継ぎについて(通知)」(平成29年11月21日 義務教育課長、特別支援教育課長、高校教育課長)
- ・「中学校から高等学校への支援継続のための引継ぎのガイドライン」(平成29年11月 特別支援教育課)
- ・「中学校・高等学校連携シート」(平成29年11月 特別支援教育課)
- ・「参考資料 特別な支援が必要な生徒のために ー中学校から高等学校への支援の引継ぎの手引きー」(平成29年11月 特別支援教育課)

兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課

〒650-8567
神戸市中央区下山手通5-10-1 TEL 078-341-7711(代)

29教T2-003A3

特別な教育的支援が必要な生徒の支援情報の引継ぎ

